

ユーチューバーになるから、学校に行く必要がない

「僕はユーチューバーになるから、学校に行く必要がない」と豪語し、当時小学校4年生の途中から約2年間も、学校に行っていない男子児童の相談を受けた。不登校になったきっかけは、そのように彼自身が発した言葉をからかわれたことである。2回彼に直接会おうと、彼の自宅を訪問するも、「会いたくないし、会う必要もない」と、2階の自室で立て籠る。ドアの前に机を押し付け、ドアを開かないようとする。興奮して壁をドンドンと蹴りまくる。終いには、泣きながら喚きまくる始末。永い間の不登校で非認知能力が育たず、感情を制御できない。2回共仕方なく両親や祖父母の対応で解決を図るべく、階下で母親と祖父母と話し合った。

学校に行かないのでやることがない（学校に行っていないからこそやることはいっぱいあるはずだけど）と言って、スイッチやユーチューブにハマる毎日と言う。母親が彼と話し合い、制限時間を設けても守った試しがないから、諦めたと言う。父親は、やることがないので仕方ない（えっ！）、彼を弁護する。父親は、息子との対立を恐れ、なかなか息子と対峙できない。当然に夫婦の意見の相違が生まれ、夫婦仲も悪くなっていく。祖父は、そんな息子（彼の父親）を不甲斐ないと零す。祖母は、息子の嫁である彼の母親が彼のことで必死になっている姿を見て、擁護する。

土曜日、両親が相談室に来て、まずは彼の詳細な成育歴（彼が特定されるため、その詳細は割愛させて頂く）を聴き、彼がこうした状況に至った素因を分析した。そして、毎週土曜にご両親（時に祖父母も）に相談室に来て頂き、彼の様子を聴き、解消に向けての彼への対応をアドバイスする形で解消プログラムが始まった。

父親がどうして彼と対峙できないのか、父親と祖父とのこれまでの関係から明らかになってきた。それ故、ロールレタリングも活用して、父親のカウンセリングも行った。母親にもその内容を話し、夫（彼の父親）への理解を求めた。

彼はと言うと、ユーチューバーになると言いながら、自ら動画配信をするわけでもなく、ひたすらA市在住で有名なユーチューバーにハマっているだけだった。でも、彼はいずれ彼のように豪邸に住むユーチューバーになると、真剣に夢見ていた。私のアドバイス通り、母親が彼に伝えた。そのユーチューバーだって、国立大学卒で知識も技術も能力もある。ユーチューバーって言っても稼いでいるのは、ほんの数パーセント。しかも、その殆どが同世代の会社員の年収には及ばない。彼がハマっているユーチューバーだって、一時は稼いで豪邸（と言っても、実は地価は非常に安い）に住んでいるが、そう長くは続かない。ある大学教授が調べたデータを伝えた。しかし、勿論、彼は耳も貸すはずもなかった。

そんな様子を観て、私は対応の方向を変えた。その母親の意に反して、彼にそこまで言うんだったら、ユーチューバーになるために早速動画配信を始めたら、と伝えてもらった。母親は驚いた。当然になれるはずがない話であると母親は思っていたからである。勿論、私も同様である。しかし、そのように捕りつかれた子どもは、体験しなければ現実が分からない

と母親に伝えた。母親から私の話を聞いた彼は、私に会ってもいいと言い出した。対応始めて1か月程で、私は彼と初めて会った。小学校6年生に割にはとても幼く感じた。夢溢れるユーチューバーの話で盛り上がった。彼の浮き浮きした様子は今でも覚えている。そして、まずは自分で考えたままの動画を配信し始めなければ、ことが進まない。しかも、毎日配信する位にやらないと、フォロワー数は増えない。自分が納得するまでトコトンやってみな、と彼に促した。

その後彼は、うまく動画配信できない自分に苛立ち、高価なカメラや編集ソフトを親に要求してきた。私は知人に聞き、最低限の備品（確か当時で3万はいかなかったと思う）にしてそれを買ってあげるように母親に伝えた。申し訳ないが、いくら好きでも小学6年生がそれほどの技術を持ち合わせているとは思えなかった。なかなか動画配信のフォロワー数が伸びない様子は、毎週土曜日の両親の話から伺った。何しろ不登校で外出ができないから、動画ネタが採れない。編集ソフトも説明書の言葉にも詰まる。悪戦苦闘の様子を聴いた。毎週土曜日の両親との面談は、2度程母親だけの面談になったことがあったが、続いた。

結果数か月後、彼は簡単にユーチューバーになれない現実を知ったか、母親から彼が動画配信は諦め、フリースクールに通い少しずつ勉強をし始めたとの連絡を受け、私達の対応は終えた。